

○ワークショップ「都市のOR」

開催責任者 情報理工学部 鈴木敦夫

2011年12月17、18日

南山大学名古屋キャンパス R棟フラッテンホール/名古屋ガーデンパレス



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇報告者および題目

招待講演 5件

1. Models for the Schedule Optimization Problem at a Transit Terminal: Applications to Transportation and Logistics, (Prof. Giuseppe Bruno, University of Naples (イタリア))
2. Application of Discriminant Analysis for People Counting using Radio Irregularity in Wireless Sensor Networks, (Prof. Winston Seah, Victoria University of Wellington (ニュージーランド))
3. Population Screening and Protection in Response to Radiological Events, (Prof. Eva Lee, Georgia Institute of Technology (アメリカ))
4. An Analysis of Travel Demand in Japan's Inter-city Market: Empirical Estimation and Policy Simulation, (Prof. Tae Oum, Nanzan University, University of British Columbia (カナダ))
5. Demand Uncertainty and Airport Capacity Choice, (Prof. Xiaowen Fu, Hong Kong)

Polytechnic University (香港))

ほか、一般講演 18 件（プログラムの詳細は <http://www.ms.nanzan-u.ac.jp/uor/2011/schedule.html> を参照してください）

◇ワークショップの討論内容

セッション 1 からセッション 8 まで、以下のテーマについて発表と討論を行った。

セッション 1：道路網の解析に関する発表と、地図上のラベル作成について

セッション 2：都市に関するデータ分析

セッション 3：災害対応の施設について

セッション 4：招待セッション I、施設のスケジューリングから原子力発電所の事故対応まで

セッション 5：招待セッション II、航空路、空港の経済分析

セッション 6：ハブ空港、バッテリー交換施設の最適配置、価格決定問題

セッション 7：都市の中の流れ、津波被害

セッション 8：鉄道網について

いずれのセッションでも、都市施設の配置について、防災について、交通ネットワークについて、などさまざまな観点から議論を展開した。特に、東日本大震災をテーマとした災害への対応のひとつとして、情報理工学部の 4 年生は、卒業研究で取り組んでいる内容として、東海地震における瀬戸キャンパスからの帰宅避難シミュレーションについて発表した。また、招待講演者が述べたアメリカ、ヨーロッパの事例など日本の研究者、学生にとって非常に参考になった。

◇研究成果発表

ワークショップの予稿を作成したが、その後の研究発表は各発表者に任されている。日本オペレーションズ・リサーチ学会誌、日本都市計画学会誌など、都市のオペレーションズ・リサーチに関係のある学会誌に発表する予定である。